第２編

ペアレントメンターとは

ペアレントメンター事業とは

ペアレント・メンターとは

メンターとは？

* 企業等の人材育成でも注目される「メンター」
  * 成功体験を実現するための
    お手本（ロールモデル）を見せる
  * 成功体験の楽しさ・やりがいを「語る」
  * ⇒どうするかを「自分で考える」支援をする
* トレーナー・コーチとの違い
  * やり方を教えたり、押し付けたりするのではない
  * 相談者自身がやり方・解決を発見・創造する

こぼれ話：メンターの由来

- メンターという言葉は、古代ギリシャの詩人ホメロスの叙事詩叙述詩『オデュッセイア(The Odyssey)』の登場人物である「メントール（Mentor）」という男性の名前にその語源があります。
- メントールは、オデュッセウス王に王の息子の教育を託され、良き指導者、良き理解者、良き支援者としての役割を果たしたと歌われています。
- この由来に基づき、メントールが英語では、メンター（Mentor）と言われるようになりました。
  - （参考：国際メンタリング＆コーチングセンターhttp://www.smartvision.co.jp/mentor.html）

「メンタル」とは語源上、無関係

ペアレント・メンターとは？

- 人材育成における「メンター」と違うところは、
  - 「成功」のお手本である必要はない
    ⇒**「同じ」立場**に居る者としての目線
  - 成功体験を「語らない」⇒「**傾聴**」に徹する
    - 気持ちを受け止める心理的なサポーター
- 人材育成に「メンター」と同じところは、
  - やり方を教えたり、押し付けるのではない
  - **自分のなかにある考えを整理する**ことを導く

ペアレントメンターとは？
～厚生労働省の説明文より

支援法13条の改正
「発達障害児」→「発達障害者」
大人の発達障害も・・？

＊ペアレントメンター：

＊発達障害者の子供を持つ親であって，その経験を活かし，子供が発達障害の診断を受けて間もない親などに対して助言を行う者。

～心のケア～
「助言」のひと言では
言い表せないが・・

ペアレント・メンターとは？

＊「経験を活かし、助言をおこなう」という意味

＊「成功」のお手本である必要はない
⇒「同じ」立場に居る者としての目線

＊成功体験を「語らない」⇒「傾聴」に徹する

＊気持ちを受け止める心理的なサポーター

＊やり方を教えたり、押し付けるのではない

＊自分のなかにある考えを整理することを導く

ペアレント・メンターの役割

子育てへの安心感を与える

* “同じ”親の立場・視線で、
  子育てへの希望を取り戻す支援を行なう
  * 子育てのしんどさ・とまどいなどを共感する
  * 子どもの成長を感じる楽しさを伝える
  * 将来への見通し・希望を示唆する
* 地域の支援リソースなどの情報提供
* 専門機関への相談に向かうきっかけづくり

ペアレント・メンターの機能と要件(資格)

- 同じ目線
- 共 感
- (積極的)傾聴

プロでないこと
(基本ボランティア)

子どもが発達障害の
診断を受けていること

養成研修を
受けること

とりあえず家庭が
安定していること

親の会で活動している

「共感」について・・・

* 「障害児の親」というだけで、誰とでも、何時でも、「共感」できる訳ではない
* 「障害　プラスα」ではない
  「日常生活　プラスα、・・・(障害も含む)」
* “同じ”障害児の親であるがゆえに、「共感」に失敗した場合には、致命的な失望感にもつながる
  * 養成研修、メンターへのサポート体制、マッチング、相談コーディネートの重要性

「傾聴」

・・ちょっとした違いですが・・・

* 先輩保護者の
  お話を聞いてみませんか？
  →茶話会・講演会(話し方)
* 先輩保護者に
  お話を聞いてもらいませんか？
  →ペアレントメンター(聴き方)

プロ（専門家）を目指す必要はない

* 「同じ目線」で「共感」するには、
  むしろ「専門家」であることが壁になる
  * 「あるべき」が先立ち「ありのまま」に見えない
* 「解決策を示さなければならない」という呪縛
  * **悩みは解決されなくてもよい！**
* 「専門家」では「共感」してはいけないことも、
  親の立場では「共感」しても許される

こどもが発達障害の診断を受けていること

* **「腑に落ちる」**ということ（実体験のちから）
  * 親にしかわからないことはあるし、それに寄り添うニーズが、メンターの存在意義
* 公助活動としての責任
  * 決めるのは本人だが、ペアレント・メンターは、診断を受ける方が良いという姿勢で取り組むもの

養成研修をうけること

* 「傾聴」「共感」の研修・トレーニング
* 事業の運営方針・ルールを理解し、遵守する。
  * 守秘義務・個人情報保護の理解も含む
* ペアレント・メンターとして、「できないこと」「してはならないこと」をわきまえる。
* メンター自身の子育て・生活を豊かにする。

ペアレント・メンターNG集

* 単独行動・個人的にメンターとして活動する
* 他言は無用（守秘義務の厳守）
* 診断的な言動、相談者を批判・批評
* 他者や相談機関を一緒になって非難する
* 専門職の業務（プロがやるべき仕事の代行）
  * ✖相談支援業務　→あくまでも自発行動を促す
* 同行・代理業務（含む代理人としての交渉）
* 相談者の私生活への介入

とりあえず、家庭が安定していること

* ペアレント・メンター自身が、心身や日常生活で不安を抱えていては、人の話を「傾聴」し相談にのることはできない。
* ペアレント・メンター自身が、精神不安定だと「共依存」「過度な同調」等の問題につながりやすい。 **共感 は 同調することではない**
* ペアレント・メンターをすることが、現実逃避の手段になりかねない

親の会で活動していること が望ましい

* 組織のなかで動くということが理解できている。
* 個人のわずかな事例だけでなく、他の家族の事例についても見聞している。
* 親同士のインフォーマルネットワーク、非公式な情報網を持っている。
* 障害に対して、比較的ポジティブな考え方ができる。（習性となっている。）
* (反面)専門家なみに「障害」に馴れ過ぎ。

ペアレント・メンター事業とは

ペアレント・メンター事業とは

* ペアレント・メンターを活用し、心理的不安から具体的な発達支援に踏み出せずにいる保護者に寄り添い、障害のある子の子育てへの前向きな気持ちを導き出すための養育者支援事業
* 「保護者が（既に持っている）子育てへの前向きな気持ち」を後押しすること

保護者（家族）支援体制のなかで ペアレントメンター事業を位置づける

- ペアレント・メンター事業単独での効果を期待しない。
  - 保護者支援ニーズのすべてに対応できる訳ではない
- ペアレント・メンター自身が、支援を必要としている保護者・家族である
  - **療育を卒業した存在ではない！**

ペアレント・メンターは互助・共助ではない （「公助」であるということ）

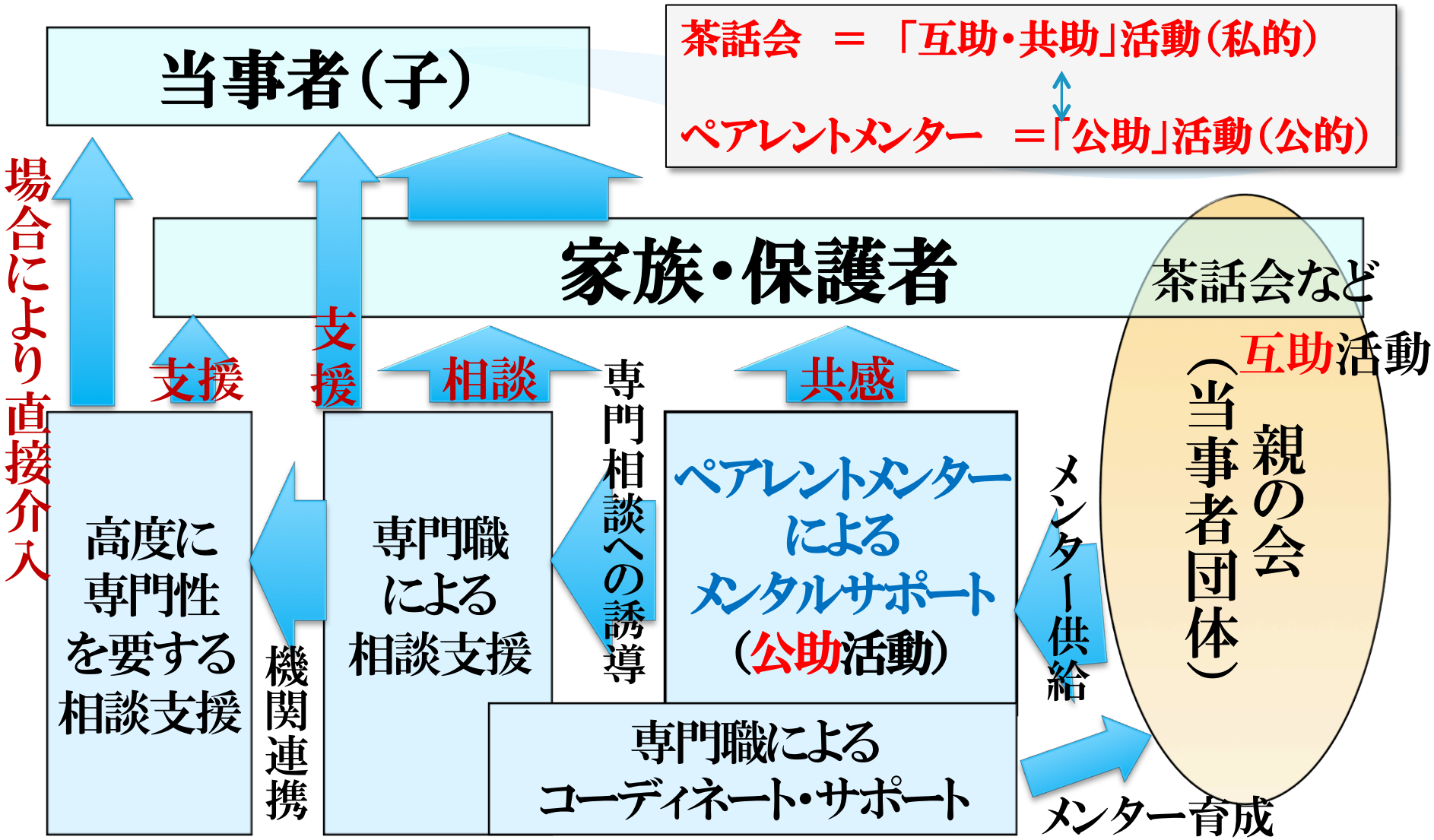
- **「親による親支援」だが、親だけでやるものではない**

前提条件

- 専門支援者による相談支援の充実
- 全体の支援体制のなかでの明確な位置づけ

公の責務

ペアレント・メンターに関わる
保護者支援の概念図



(余談)多面化する家族支援

- 子育てとキャリア形成
  - 1億総活躍の「1億」に、障害児の親は入らないのか
    - 「療育(子との時間)」 と
      「働く人(親)のキャリア形成(働き甲斐)」
- 親をとるか、子をとるか
  - 「終わらない子育て」と「介護の始まり」の狭間で
- 「切れ目のない支援」に必要なものは
  - 時系列での継続性
  - 生活場面での継続性

X 家族それぞれの次元

ペアレント・メンター事業が成り立つための条件とは・・

- 全体的な家族・保護者支援施策が前提。
  - 専門支援職・相談支援職の量的・質的向上が本筋。
- ペアレント・メンターを守れる仕組み
  - フツーの保護者が安心してメンターができる仕組み
- 地域で持続可能な体制づくり
  - 人材の継続的育成のしくみづくり
  - ペアレント・メンターをすることへのメリットを用意する
  - 「公助事業である」という行政の自覚＝予算含む

メンターを守れる仕組み・・

のめり込むことの危険性

- 「熱心な人」ほどリスクを抱えやすい
  - 役立ちたいという気持ちが強くでる
    →相談者の期待とのずれ
  - 過度な共感（同調）
    →共依存、メンター自身の精神不調
  - 過度の関与
    →私生活への入り込み・家庭崩壊

ペアレントメンター事業をとおして<u>地域の総合的な支援力</u>を高める

- 支援従事者・支援機関の質の底上げ
  - 保護者心理に寄り添える行政職・支援職の育成
- リアルな支援ニーズの把握
  - 形式的な数字（アンケート）では得られない保護者の「ホンネ」を掴む
- 地域資源ネットワークの再整備